

幸福度からみた都市と地方の比較 (調査結果速報)

神永希¹・杉本達哉²・奥平詠太³

¹正会員 八千代エンジニアリング株式会社 技術創発研究所 (〒111-8648東京都台東区浅草橋5-20-8)

E-mail: kaminaga@yachiyo-eng.co.jp

²非会員 八千代エンジニアリング株式会社 技術創発研究所

³非会員 八千代エンジニアリング株式会社 事業統括本部国内事業部社会計画部

都市から地方へヒトを呼び込む・還流させる動機付けとして、幸福度に着目し、都市と地方に住む人では幸福度や幸福感を構成する要素にちがいがあのかとの問題意識のもと、地方に住む人の幸福度の特徴、都市に住む人とのちがいを、を把握することを目的として、アンケート調査を実施した。

Key Words : Degree of happiness, Sense of happiness, The promotion of overcoming population decline and vitalizing local economy, Migration of population

1. はじめに

行き過ぎた都市部への人口集中は、暮らしの質の確保や健全な経済発展を妨げているのではないかと、多様で持続可能な地域・国土の発展のため、地方の魅力に改めて目を向け保全していく必要があるのではないかと、といった危機感のようなものが国民的な共通認識となりつつある。さらに、これに関連する動きが、政府が推進する地方創生政策と相まって、高まりつつある。

本研究では、都市から地方へヒトを呼び込む・還流させる動機付けとして、幸福度に着目する。

幸福度に関する調査は、国内では、公的なものとして国民生活選好度調査¹⁾、これを引き継いだ形の生活の質に関する調査²⁾、自治体によるもの³⁾、他にも研究機関・研究者によるもの、など数多く存在する。国外においても、OECD⁴⁾や国連⁵⁾をはじめ、同様に無数の研究事例・調査がある。これらの取組みは、近年高まりつつある、幸福度の指標化に向けた動きと連動して発展し続けている。しかし、地方創生につながる、都市対地方という構図を主眼に置いた調査は筆者の知る限りほとんど例がない。

国民生活選好度調査及び生活の質に関する調査では、幸福感を判断する際に重視する事項として次の12項目を尋ねているが、これらの状況が居住する地域によって異なることは明らかである：家計の状況、就業状況、健康状況、自由な時間、充実した余暇、仕事の充実度、精神

的なゆとり、趣味・社会貢献などの生きがい、家族関係、友人関係、職場の人間関係、地域コミュニティとの関係。また、これら12項目の中で重視した事項は、家計の状況、健康状況、家族関係、が継続して上位を占める一方で、1人あたり実質GDPは伸び続けているにもかかわらず、幸福度(生活満足度)の平均値はほぼ横ばいである(図-1、「国民生活選好度調査」「生活の質に関する調査」より)。また、都市と地方には依然として大きな所得格差があり(図-2、「統計でみる市区町村のすがた」より)、都市部への人口集中は一貫して進行している(図-3、「国勢調査」より)。これらのデータは、高い所得(あるいは幸福)を求めて都市に住む人は増え続けてい

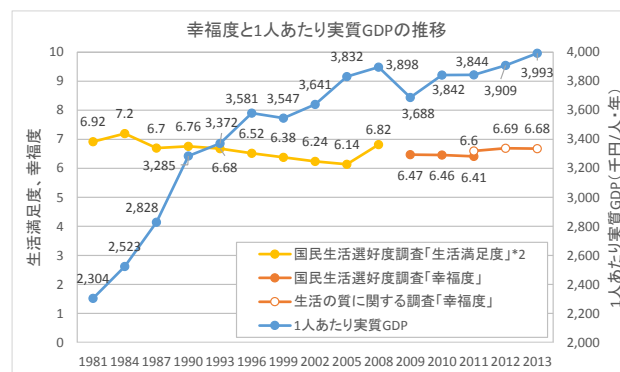


図-1 幸福度と1人あたり実質GDPの推移

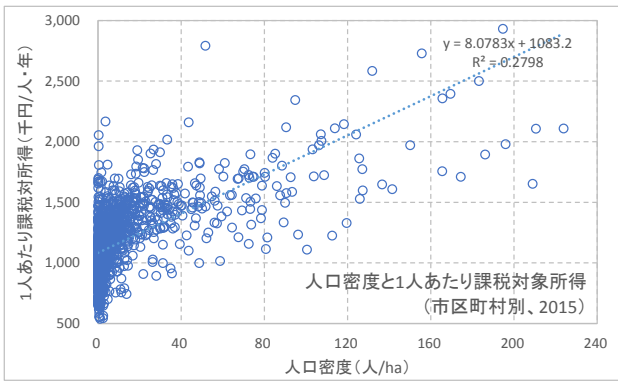


図-2 人口密度と1人あたり課税対象所得

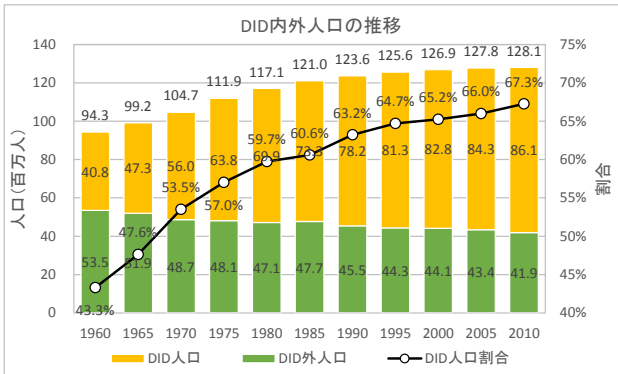


図-3 DID内外人口の推移

るのに、都市への転居が実際には幸福感につながっていない可能性があること、幸福度の全国的な平均値では幸福感の実像に迫るには限界があること、を示している。

本研究では、都市と地方に住む人では幸福度や幸福感を構成する要素にちがいがあのではないかとの問題意識のもと、地方に住む人の幸福感の特徴、都市に住む人とのちがい、を把握することを目的として、アンケート調査を実施する。

2. 調査概要

調査概要は表-1のとおりである。

本調査では、スクリーニングによりセグメントごとの回収数に上限を設けた。ほとんどのセグメントにおいて上限値の回収数が達成できた（達成できなかったのは多くが年齢15-19歳）。本稿に示す集計結果は、断りがないうり、この回収数をそのまま集計したもので、年齢構成や地域区分構成が実際とは異なる点に留意されたい。

また、国民生活選好度調査の結果と比較し考察の参考とすることを念頭に、本調査における設問は、同調査における設問を参考とした。

表-1 アンケート調査概要

調査方法	webアンケート (調査会社登録モニターに送付)
調査期間	2018年6月15日(金)～20日(水)
回収数	11,308票 ※スクリーニングにより次の119区分ごとに100票回収を上限とし106区分で達成： 都市（三大都市圏または政令指定都市の中心部から車で30分以内）／地方（それ以外）[2]×地方ブロック[9]（北海道／東北／北陸／関東甲信／東海／近畿／中国／四国／九州・沖縄）×年齢[7]（15-19歳／20-29／30-39／40-49／50-59／60-69／70-）、ただし四国で「都市」に該当する地域がないため(2*9-1)*7=119区分となる
アンケート調査項目	現在の幸福度、幸福感を判断する際の基準、幸福感を判断する際に重視した事項、個人属性（性別、年齢、家族形態、職業、年収、居住地等）

3. 結果と考察

(1) 単純集計

単純集計結果を図-4、図-5、図-6に示す。

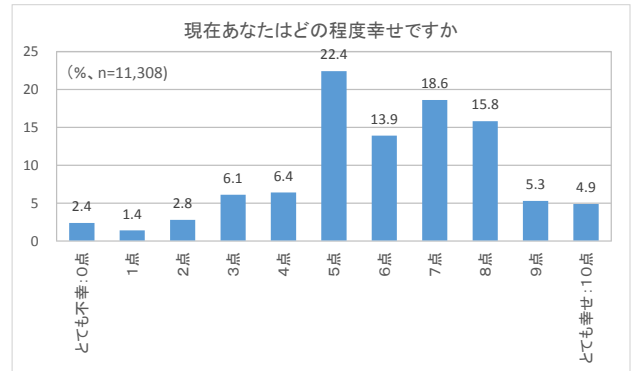


図-4 単純集計結果：幸福度

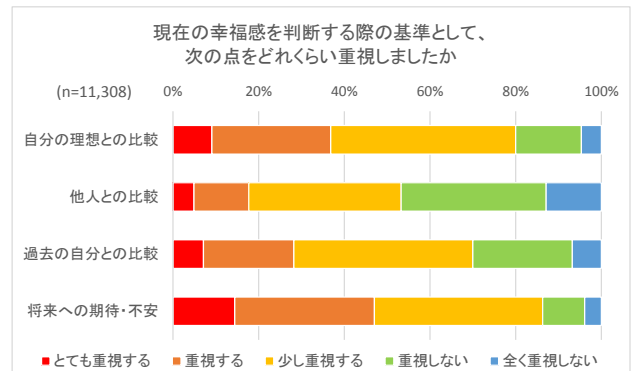


図-5 単純集計結果：幸福感を判断する際の基準

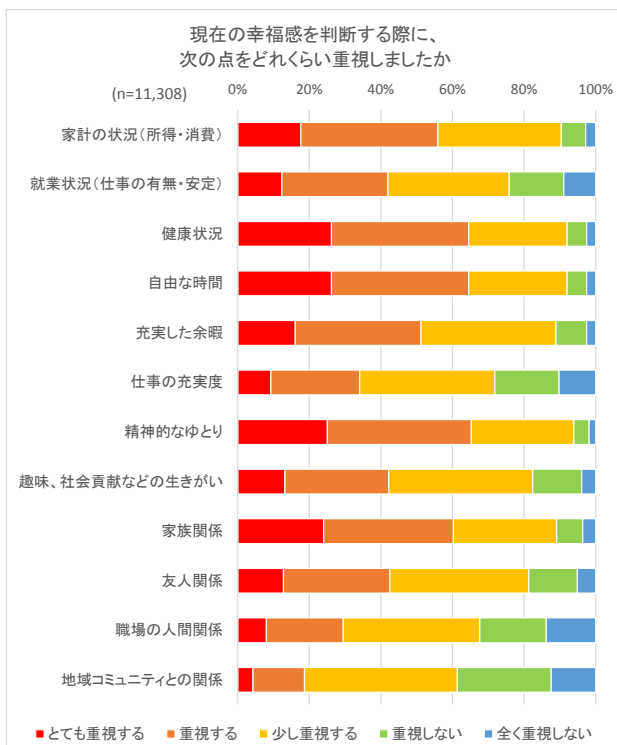


図-6 単純集計結果：幸福感を判断する際に重視した事項

(2) 都市と地方のちがいに着目したクロス集計

都市と地方のちがいに着目したクロス集計結果を研究発表会時に示す。

4. おわりに

本稿では、都市から地方へヒトを呼び込む・還流させる動機付けとして、幸福度に着目し、都市と地方に住む人では幸福度や幸福感を構成する要素にちがいがあるのではないかとの問題意識のもと、地方に住む人の幸福感の特徴、都市に住む人とのちがいを把握することを目的として、アンケート調査を実施した。

今後は、Happinessに関する長年にわたる研究蓄積のレビューを行い、その知見を反映するとともに、幸福度や居住地選択に着目したより適切なセグメントの設定方法の検討や、幸福感を構成する要素の定量的把握に向けて、本調査結果を役立てていきたい。

参考文献

- [1] 国民生活選好度調査（内閣府）
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>
- [2] 生活の質に関する調査（内閣府経済社会総合研究所）
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>
- [3] 例えば新潟市など
- [4] How's Life? Measuring Well-being（OECD 経済協力開発機構）
<http://www.oecd.org/statistics/how-s-life-23089679.htm>
- [5] Helliwell, J., Layard, R., & Sachs, J. (2018). World Happiness Report 2018, New York: Sustainable Development Solutions Network（国際連合）.
<http://worldhappiness.report/>

(2018. ?? . ?? 受付)

PRELIMINARY SURVEY REPORT ON THE DIFFERENCE OF HAPPINESS IN URBAN AND RURAL AREAS

Nozomi KAMINAGA, Tatsuya SUGIMOTO, Takato YASUNO and Eita OKUDAIRA

Focusing on the degree of happiness as motivation for attracting and reversioning human resources from urban areas to rural areas, we hypothesize that there is a difference in the degree of happiness and the elements constituting the sense of happiness between people living in urban and rural areas. Aiming to ascertain the features of sense of happiness people living in rural areas feel and the differences with people living in urban areas, a questionnaire survey was conducted.